

女子高生が男子公式戦で初ホイッスル

浜松工・久米柚嘉さん(2年)が7日、サッカー県高校総体西部地区大会で、女子高生として県内で初めて、男子公式戦で主審を務めた。7位決定戦の浜松湖東―掛川東戦をレフェリングした久米さんは「大舞台だったので全力でやりました」と笑顔を見せた。

主審打診に「本当？」

雨音が強まる中、女子高生主審の試合終了のホイッスルが響いた。大きな水たまりができた芝生を縦横無尽に動き回り、浜松湖東と掛川東の試合をさばいた。雨でボールは止まりやすくなることで、選手との接触が多くなる中、堂々と対処していった。「以前の試合で審判をした時も雨だった。試合をやる中で他校の監督さんから『お前、雨女だろ』と言われることもありました」とニコリ笑ったが、試合中に顔打つ水滴に「目を開けられないうらいでした」と悪条件の経験はあれど苦戦したようだった。

県協会審判委員会によると高校男子公式戦で女子高生が主審を務めるのは初めてとなる。マネジャーとして所属する浜松工の地区予選敗退が決まった5日に正式に決定した。



判松主審の久米柚嘉さん。ウズルをファ定工

◆久米 柚嘉(くめ・ゆづか)2006年12月18日、浜松市生まれ。16歳。小学校では葵西F C、浜松北星中で浜松泉F Cに所属。主にセンターバックでプレーしていた。174センチ。家族は両親、兄、姉。血液型はO。

応援される審判に

久米審判は中学1年で所属していたクラブで必須となっていた審判資格4級を取得し、3級は一学年上のマネジャーの

女子総体や中体連での経験はあったが、主審の打診を受け「男子は走る量が多く、強く出る選手もいる。最初話を聞いた時は、『副審じゃなくてですか?』と本当なのか疑いました」と振り返った。



コイントスをする浜松工・久米主審

「監督はよく応援される選手になりなさい」という。審判という役割は嫌われがちですが、私は応援される審判になりたいです」と晴れやかな表情を浮かべた。

(伊藤 明日香)

高校サッカー

男子公式戦に

女子高生主審



女子高生として県内で初めて男子公式戦の主審を務めた久米さん

浜松工久米柚嘉さん

充実の表情

県高校サッカー界に新たな「始まり」を告げる笛が鳴った。

浜松工の久米柚嘉さん(2年)が女子高生として県内初となる男子公式戦の主審を担当。7日の県高校総体西部決勝トーナメント7位決定戦・掛川東・浜松湖

東戦で笛を吹いた。練習試合や女子の公式戦は経験があったが男子は初。「ボールのないところで接触もあって、見る部分が多い」と難しさを実感しつつ

「自分にとっては大舞台だったので全力でやりました」と充実した表情を浮かべた。中学まで現役で活躍

たと思えます」。久米さんは「笛だけでなく声でも伝えて試合をコントロールしていきたい」と話した。

西部支部では高校生審判員の育成に注力。昨年は山下良美さん(37)が女性で初めてJ1の主審とW杯カタール大会の審判員を務めた。格好良くて、凄いなあと感じました」と目を輝かせつつ「凄く遠い存在です。まずは2級資格の取得を身近な目標に自分なりに道

を歩む。(加賀田 篤)

久米柚嘉(くめ ゆずか) 2006年(平

18)12月18日生まれ、浜松市出身の16歳。葵西小1年の時に葵西FCでサッカーを始める。北星中では浜松泉FCでプレー。174。家族は両親と兄、姉。血液型O。

2023年5月13日(土)
スポーツニッポン掲載記事